



**ありのままを受け入れる**

自分の欲求の表現がまだまだ未熟な1歳児は、大声で泣く・拒否・噛みつきなど、大人を困らせることがあります。子どもも混乱していることを理解し、ありのままを受け止め、子どもの心に寄り添うことが大切です。

# section 21 1歳児の保育

## ひとり立ちへの出発期—自分の力で歩き出します

1歳児は歩けるようになった喜びで、あちらこちらに移動し、身の回りの様々なものに触れ、関心を持ち、新しい行動を試すようになります。言葉も片言や会話ができるようになっていきますが、まだまだ表現していくには難しい時期です。大人が気持ちを受け止め代弁してあげることが大切です。また、その気持ちに寄り添ってくれる大人の存在が、安定した生活を支え、その大人と関わる中で他の子どもとの友達関係をも育ちはじめます。

① **ワンポイントアドバイス**

**やりたい気持ちを応援しましょう**

歩き出すようになり、行動範囲が広がる中で、できることが少しずつ増えていきます。

「ジブンデ、ジブンデ」という姿が生活の色々な場面で見られてくると思いますが、大人がしてしまわぬ方が早いから、汚れないからと手を出してしまわずに、子どもの「やりたい」気持ちを尊重し、どうしてもできないところだけ、手を貸してあげてください。そしてできるようになったことはしっかりと褒めてあげてください。

「やりたいこと」が「できた」になる中で、子どもたちのやる気や意欲が育まれていきます。



## 「やりたい」気持ちを尊重し 子どもたちの心の拠り所になります



### 自我が芽生え始める時期

自我が芽生え始め、自己主張も増えていきます。噛みつき、ひっかきなど友だちとのトラブルが多くなる時期ですが、それは友だちとの関わりや興味、関心の芽生えのひとつです。その時々の子どもの気持ちを様子や行動からも受け止めながら、いけないことはいけないと伝え、気持ちに寄り添ってあげることが大切です。



### 遊びがどんどん活発になります

模倣遊びが活発になる時期です。友だちの真似をしてお人形を寝かせたり、誰かの真似をして遊ぶことが増えていきます。また、かくれんぼや追いかけてこの入口として大人と一緒に隠れたり探したり、「まてまて遊び」を楽しみます。保育園では子どもと同じ目線になって楽しく話しかけたり、歌ったりしながら、年齢にあった遊びを展開していく中で、大人が仲立ちとなって愛着関係を作り、その上で子ども同士の関わりや言葉のやりとりを広げていきます。



### 「好き嫌い」の増える時期だからこそ

大人と同じ食べ物を口にできるようになり、色々な味を覚えていきます。今まで知らなかった味を知ることで『好き嫌い』が増えていきますが、当園では何でも食べられるようになって欲しいという願いから、給食は一品ずつ出して、それを食べることができたら次の物を出しています。たくさん遊ぶとお腹が空きます。苦手な野菜も魚も何でもおいしく食べられます。この時期は手で食べる時期から、次第にスプーンを使いたいという気持ちが大きくなり、上手にすくって食べることができる子どもでできます。月齢差や個人差があるので、スプーンで食べたいという興味を大切にしていきます。

